令和６年度後期 単位互換授業履修対象科目一覧

構成機関名

（　　秋田公立美術大学　　）

No.	ページ	授業科目名	担当教員	単位数	学期　（　）内初日	受入数	学部等	曜日/時限	備考
1	4-1	日本建築史２	石渡　雄士	2	後期(10/7)	若干名	美術学部美術学科	月曜/１時限	
2	4-2	シルクロード図像学２	井上　豪	2	後期(10/2)	若干名	美術学部美術学科	水曜/３時限	
3	4-3	現代アート概論	岩井　成昭	2	後期(10/3)	若干名	美術学部美術学科	木曜/３時限	
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									

【注意事項】

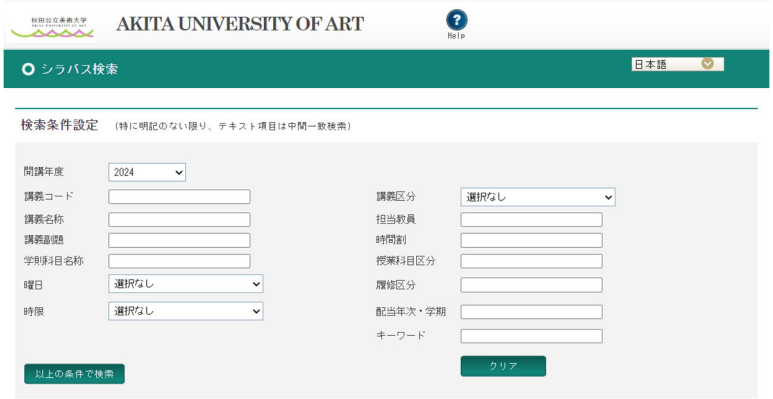
『特別聴講学生入学願』の提出期日：　令和6年9月13日（金）

秋田公立大学 WEB シラバスの見方について

① WEB シラバスにアクセスします。

https://portal01.akibi.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

② 講義名称や担当教員を入力し、検索します。



③ ご覧になりたい授業の選択をクリックします。

④ ウィンドウが開き、PRINT をクリックすると印刷等ができます。

シラバス参照

講義名	日本建築史２
（副題）	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	月曜日１限目
授業科目区分	専門科目―専門共通科目―美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	２・３年次後期

担当教員

氏名
◎ 石渡　雄士

前提とする授業、密接に関係する授業	日本建築史１と関係するが必須ではない。日本建築史１は古代～中世、日本建築史２は近世の建築や都市を主な対象としており、両者を受講することで日本建築史の全体像が理解できる構成となっている。
授業に関連するキーワード	古建築の空間構造、様式、都市空間と成り立ち。
授業の到達目標及びテーマ	近世におけるわが国の建築や都市の変遷を理解する。 建築や都市の歴史を基礎知識として身に付けるとともに、それ等を正しく人に伝えることが出来るようになること。
授業の概要	各時代の建築様式の変遷及び都市や地域の成り立ちなどについて学ぶ。また、日本建築史の理解を深め、視野を広げるために関連する西洋建築史や近代建築史、現代建築等についても扱う。
授業計画	授業計画 以下の構成で講義を進めるが、進捗状況などにより順序やテーマを変える場合がある。 第 1回　ガイダンス 第 2回　城郭建築の歴史と形態 第 3回　城下町の歴史と空間構造 第 4回　近世の武士住宅(大名屋敷と侍屋敷) 第 5回　近世の武士住宅(書院造) 第 6回　茶室建築 第 7回　数寄屋建築 第 8回 庭園 第 9回　霊廟 第10回　能舞台と劇場建築 第11回 町屋建築 第12回 農家建築 第13回 近世の都市（宿場町、在郷町） 第14回 近世の都市（港町） 第15回　まとめ 〇実務経験のある教員等による授業科目に該当
授業時間外の学習内容等	配布資料および参考文献等を読むことで理解を深め、関連する建築や都市を実際に訪れて理解を深める。
評価方法	期末レポート１００％
テキスト	授業内に適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	授業内で紹介する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	シルクロード図像学２
（副題）	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	水曜日３時限
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	３・４年次後期

担当教員

氏名
◎ 井上　豪

前提とする授業、密接に関係する授業	「美術理論・美術史」「シルクロード図像学１」等と一部内容が関連している。
授業に関連するキーワード	シルクロード　仏教美術
授業の到達目標及びテーマ	インドに発した仏教美術はシルクロードを東へ向かい、沙漠を越えて中国に伝えられた。隊商路として栄えた西域のオアシス地帯は、多彩な文化が常に混じり合う「民族の十字路」であった。 　本講義は、前期に開講する「シルクロード図像学１」のいわば後編として、楼蘭・亀茲などタリム盆地の仏教美術を中心に取り上げる。特に代表作例として石窟壁画に焦点を当て、個々の画題を考察しながら、背後にある仏教思想やオアシスの古代文化など、多角的な視点で古代美術の世界について解説する。
授業の概要	遺跡全体から見た古代美術のあり方、壁画の各テーマから読み取れる美術の変容や文化的背景の検証、細部描写から再現される古代風俗の姿など、複数の視点から西域美術の図像を考察する。講義には配付資料とスライドを用い、幅広い視野で古代美術を捉えていきたい。
授業計画	授業計画 第1回　　ガイダンス 第2回　　楼蘭王国の出　美術 第3回　　ミーラン遺跡の壁画 第4回　　古代ホータンの信仰と図像 第5回　　ラワク仏塔とダンダン・ウィリク寺院址 第6回　　クチャ・キジル石窟の形式と壁画① 第7回　　クチャ・キジル石窟の形式と壁画② 第8回　　壁画の主題解釈「国王の帰依」 第9回　　壁画の主題解釈「女人の供養」 第10回　壁画の主題解釈「出家の修行と在家の布施」 第11回　山岳図と本生図 第12回　天象図とオアシスの自然観① 第13回　天象図とオアシスの自然観② 第14回 贋作の図像学 第15回　まとめ ※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。
授業時間外の学習内容等	図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。
評価方法	試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。
履修上の注意	講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。
テキスト	内容に応じ資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。
参考書・参考資料等	必要に応じ講義の中で紹介する。

シラバス参照

講義名	現代アート概論
(副題)	
講義区分	講義
基準単位数	2
時間割	木曜日３限
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目
履修区分	選択科目
配当年次・学期	配当年次・学期1、2年次後期

担当教員
氏名
◎ 岩井　成昭

オフィスアワー	不定期ですがメールで連絡を受け付け、日時を調整します。
授業に関連するキーワード	現代美術　モダニズム　ポストモダニズム　修辞学的表現　記号　リアリズム　コンセプチュアルアート　表現技法　美術批評
授業の到達目標及びテーマ	「現代アート」は極めて定義しにくい概念であるが、この授業では現代に先立つ近代という時代においても美術は大きな変化を遂げていることから、これを振り返り「現代アート」を歴史的な文脈から理解していく。次に、ポストモダニズムという概念が一般的に浸透し、同時にコンセプチュアルアートが多様化していく1980年代から現代までの美術を中心としたアートシーンを概観し、現代の視覚表現の構造、そして、その思想的背景や社会的意義を理解すると同時に、美術が他ジャンルと接近し急激に拡張していくメカニズムを紐解いていく。さらに、美術とそれ以外のジャンルを含めた表現領域に共通して見られる修辞的表現手法を通し「現代」の意味を各受講生自身が探究しながら再構築し、それぞれの作品制作に活かせることを目指していく。
授業の概要	講義全体では大きく分けて二つの角度から現代アートを概観する。 第一には現代アートにおける「視座」として、近代から現代にかけて美術領域の拡張がなぜ起こったのか？その要因となった作品や活動はどのような意義と意味があるのか？その社会的、思想的な背景はなにか？また、その後のアートシーンにどのような影響を及ぼしたのか？といった問いに対して、美術作家を中心とした表現者とその作品、美術（芸術）潮流、アートシーンで起きた出来事や鑑賞者の反応などをデータや画像、言説をもとに解説していく。 第二に「形式と手法」として、美術ジャンルとして固定化している技法や素材の形式が現代の中でどのように批評性を持ちながら展開しているのかを知る。さらに、音楽、文学、映画、演劇、サブカルチャーなど美術以外の表現ジャンルからのアプローチがより「現代アート」のテーマを理解するのに相応しいことも考慮し、講義対象を身近な現代社会の問題や美術とは異なる表現のフィールドから取り上げていく。 受講生には、聴講時のポイントを押さえるためのガイドラインとして講義のテーマごとの要点を質問形式で記した「Question Note」を授業毎に配布する。
授業計画	第１回　美術史の大きな流れと現代美術への理解を促す基礎的な用語解説 第２回　美術史から見出す現代の意味と現代美術読解の方法 第３回　視座1 「ミメーシス（模倣）としての美術」リアリズムと抽象 第４回　視座２「イメージの類似性」隠喩（Metaphor）寓意（Allegory）類推（Analogy） 第５回　視座３「図と地とブラインドスポット／イメージの両義性」コンセプチュアル・アート① 第６回　視座４「メタフィクションと自己言及性」コンセプチュアル・アート② 第７回　視座５「作品領域と意味作用」プロセス・アート、マルチカルチュラリズム 第８回　視座６「表現の社会性」パブリック・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート、 第９回　視座７「表現の政治性」ポリティカル・アート、アート・アクティビズム 第10回　形式と手法１ 絵画・ドローイング 第11回　形式と手法2 彫刻・立体表現 第12回　形式と手法３ 写真／映像／メディアアート／インターネット 第13回　形式と手法４ インスタレーション／パフォーマンス 第14回　形式と手法５ プロジェクト／ワークショップ 第15回　形式と手法６ 鑑賞と批評
授業時間外の学習内容等	授業時間外に、授業で紹介した作品や作者を確認しておくこと。
評価方法	授業態度および定期試験（またはレポート）により評価する。
履修上の注意	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書・参考資料等	授業内ににおいて適宜紹介する。